

スタッフの参画意識を 高めることで 効果を倍増させる

院内勉強会を成功させるには、スタッフの参画意識を高める必要がある。
勉強会を実践している診療所から、「スタッフの要望を取り入れる」
「重要性を周知する」など具体的な方法を学ぼう。



Part 1 実践事例

CASE 1

スタッフが順番に講師役

知識・技術に加え指導力も向上

医療法人社団青海会しんゆり青木整形外科（川崎市麻生区）

患者からのクレームを契機に
定期的な勉強会開催

間でする必要があったが、スタッフ
によって技術や説明にばらつき
が生じていたのだ。

2009年に開業したしんゆり
青木整形外科では月に1回、勉強
会を開催している。始めたのは翌
10年。その理由を青木航洋理事長
はこう語る。「患者さんから『スタッ
フによってリハビリのやり方が違
う』というクレームがあり、対策
をとる必要に迫られたのです」

また、青木理事長には「スタッ
フには毎日漫然と仕事をこなすの
ではなく、勉強会を通じて入職時
よりもスキルアップしてもらいた
い」という思いもあった。

小田急線新百合ヶ丘駅から徒歩
4分の場所にある同院には乳幼児
から高齢者までと幅広い患者が訪
れ、その数は1日あたり約200
人に上る。そのため、ポイントを
押さえたわかりやすい説明を短時

そこで、昼休みを利用して勉強
会を開くことを決定。取り上げる
内容は一般的な疾患から疲労骨折
や投球障害、仙腸関節障害などの
難しい疾患まで様々で、医師や柔
道整復師、マッサージ師などのス
タッフが順番に講師を務めること
にし、事務職や看護師、放射線技
師にも参加を促した。全職員32人
が、自院がどのような疾患を扱っ
ているのかを知っていれば、患者へ
の説明にも差がなくなるためだ。

つもりだ。

分が持っている知識をきちんと整
理したうえで簡潔・明快に説明を
しなければならぬからだ。また、
講師役を務めることで勉強会に参
加するようになった。

青木理事長は「この指導の経験
もスタッフの将来に役立つと思い、
導入しました」と語るが、着実に
効果は出ているようだ。

同院では今後も勉強会を重ね、
スタッフの知識習得やスキル向上
を図っていくと同時に、OJTで
の勉強の場も増やし、スタッフの
育成による差別化に尽力してい



昼休みを利用して行っている勉強会

勉強会では、知識の向上が図ら
れるだけではなく、教える側に立
てば、わかりやすく指導する訓練
にもなっている。1回あたり約20
分という時間内で教えるには、自

勉強会成功のPOINT

- ・ 職員の一部だけではなく、全員が参加するスタイルをとる
- ・ 指導力向上のため、スタッフが講師を務める



「スタッフの知識習得やスキル向上に勉強会が役立っています」と話す青木航洋理事長